保健体育科学習指導案

日　時　令和６年１月 31 日（水）
　　第５校時　13：30～14：20
対　象　２　年　Ｄ　組　　３７　名
学校名　練 馬 区 立 中 村 中 学 校
授業者　教 諭　　杉 本　　菜 々 子
会　場　１　階　　体　育　館

1　単元名

Ｆ武道　（イ剣道）

2　目標

【知識及び技能】

剣道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて，打ったり受けたりするなどの簡易な攻防をすることができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

攻防などの自己の課題を発見し，合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに，自己の考えたことを他者に伝えることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】

剣道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。

3　単元について

（1）教材観

剣道は竹刀を使って基本となる技や得意技を用いて攻防を展開し、勝敗を競い合う運動であり、わが国固有の伝統文化である。礼儀作法や相手を尊重する考え方など、人間形成に関わる考え方を習得することができる単元でもある。積極的に取り組むことで、伝統的な考え方を理解し、相手を尊重して練習や試合ができるようになるとともに、相手の動きに応じて身につけた技で攻撃することができたり、相手の技を受けることができたりすることに喜びや楽しさを感じることができる。

（2）生徒観

体育の授業に意欲的な生徒が多く、始業時間前に集合、整列が身に付いている。運動技能には個人差があるが、互いに教え合ったり学び合ったりする姿が多く見られる。本学級には、剣道部に所属している生徒が少なく、多くの生徒が未経験者である。

また、剣道に関しては「寒い」「痛そう」「つまらない」などと否定的なイメージをもつ生徒が多い。主な理由として、防具の着用に時間がかかることや、試合を行うための技能の習得が困難であることが挙げられる。生徒にとって身近な種目でないからこそ、楽しさや喜びを感じづらい単元でもある。

（3）指導観

ほとんどの生徒が中学校に入って初めて取り組む単元であるため、基本動作の確認やルールの徹底など、安全に配慮した授業を展開する必要がある。

また、日常的に味わうことのできない領域だからこそ、礼儀作法などの普段とは違った雰囲気と、活発な授業内容とのメリハリをつけ、剣道ならではの楽しさや喜びを味わわせたい。

指導済みの基本技を復習しながら、学習内容をさらに発展させる。具体的には、防具（胴・垂れ）の着用や技のできばえを判定する場を設けるなど、昨年よりも実践に近い形を目指す。また、タブレットを使った動画撮影、分析を通して、生徒がポイントやつまずきを理解し、互いに学び合う授業を展開していく。武道特有の緊張感のある雰囲気と、対話的で活発な学びの両立を心がける。

4　単元の評価規準

ア　知識・技能	イ　思考・判断・表現	ウ　主体的に学習に取り組む態度
①技の名称、技を身に付けるための技術的なポイントについて理解している。 ②相手の動きに応じて自然体で中段に構えることができる。 ③基本打突では、中段の構えから体さばきを使って面や胴を打ったり受けたりすることができる。 ④しかけ技では、体さばきや竹刀操作で相手の隙をつくり、正しく打突することができる。	①ポイントやつまずきの事例などを参考に、仲間のできばえや改善すべきポイントを伝えている。 ②提供された練習方法の中から、自己や仲間の課題に応じた練習方法を選んでいる。	①剣道の学習に積極的に取り組もうとしている。 ②相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 ③周囲を確認し、道具を正しく使うなど健康・安全に留意している。 ④記録や審判など分担した役割を果たそうとしている。

5　指導計画

時	目標	学習内容・学習活動	評価規準（評価方法）
第１時	剣道の基本動作、礼儀作法を復習する。	・オリエンテーション （礼儀作法、基本動作について） ・体操【中中体操プラス】 ・正面打ち、左右面、右胴打ち ・立礼～構え【SPLYZA】	ア－①（観察・単元テスト）
第２時	胴と垂れの正しい着用方法を理解する。	・体操【中中体操プラス】 ・基本動作 ・立礼～構え～正面打ち～残心 ・防具（胴・垂れ）の着装	ア－②（観察） ウ－①（観察）
第３時	気剣体の一致を理解する。	・体操【中中体操プラス】 ・有効打突の条件（気剣体の一致） ・防具の着装 ・立礼～構え～右胴打ち～残心 ・リズム剣道	ウ－②（観察）
第４時	自己や仲間の課題を発見する。	・体操【中中体操プラス】 ・防具の着装 ・基本動作復習【SPLYZA】 ・リズム剣道（ポイント意識） ・技のできばえチェック【ウゴトル】	イ－①（観察） ウ－③（観察）

第５時	二段の技の行い方を理解する。	・体操【中中体操プラス】 ・防具の着装 ・リズム剣道（ポイント意識） ・二段の技の行い方、受け方	イ－①（振り返り・単元テスト） ウ－④（観察）
第６時	基本技で有効打突を狙うことができる。	・体操【中中体操プラス】 ・防具の着装 ・リズム剣道（ポイント意識） ・ペア練習 ・技のできばえ判定会①【ウゴトル】	ア－③（観察） イ－②（観察・振り返り）
第７時 （本時）	基本技を用いて簡易な攻防ができるようになる。	・体操【中中体操プラス】 ・防具の着装 ・リズム剣道（ポイント意識） ・ポイント復習【SPLYZA】 ・技のできばえ判定会②【ウゴトル】・ ・単元のまとめ	ア－④（観察） ウ－④（観察）

６　本時

（１）本時の目標

基本技を用いて簡易な攻防ができるようになる。

（２）本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 10 分	○整列、出席確認、挨拶 ○本時の説明 **有効打突の条件を満たす二段の技の美しい形とは？** ○【中中体操プラス】	・生徒の体調を把握する。 ・心を落ち着かせ、着座～黙想をさせる。 ・正座が難しい生徒には無理をさせない。 ・本時のねらいと流れを簡潔に説明する。 ・主運動に備えて体を温めさせる。	
展開 35 分	○防具（胴）の着用 ○リズム剣道 ○ポイントの確認	・速やかに着用させる。難しい生徒には補助をする。 ・音楽に合わせながら、基本動作を確認させる。 ・正しい竹刀操作、足さばきができるよう声掛けを行う。いいものには称賛の声掛けをする。 ・意識ポイントを明らかにする。 ≪左手≫≪右肘≫≪45 度≫≪足≫≪声≫ ・【SPLYZA】を使用して正しい体さばき、竹刀操作、基本打突の行い方について一斉に確認する。 ・タブレットを起動させる。	ア－④（観察） しかけ技では、体さばきや竹刀操作で相手の隙をつくり、正しく打突することができる。

	○ペア練習 ○技のできばえ判定会 【ウゴトル】	・周囲の安全に十分配慮させる。 ・ペアで二段の技（面―胴）を行う。 ・スロー再生で互いのペアに点数をつけさせる。 ・判定基準を明確に定める。 ＜気＞大きな声 ＜剣＞正しい打突部で打つ＝音の良さ ＜体＞良い姿勢、体、足さばきと残心	ウ－④（観察） 記録や審判など分担した役割を果たそうとしている。
まとめ ５分	○本時の振り返り ○単元のまとめ ○胴を外して片付け ○挨拶、解散	・判定会の結果をもとに振り返りをさせる。 ・けが人、具合の悪い生徒がいないか確認する。 ・雰囲気を正して挨拶をさせる。	

7　授業観察の視点

・規律が保たれ、メリハリのある授業となっていたか。
・ICT を活用し、ポイントやつまずきを分かりやすく生徒に伝えることができていたか。
・教師主導の授業ではなく、生徒が対話の中で発見、学ぶことができる展開となっていたか。
・ペアやグループ学習でタブレットが効果的に活用されていたか。